

晴れた日にこそ、恋せよ乙女

望月苑巳

いきなり空の群青を吸い込んで
現れた君がスカートを翻し
目の前でとんぼ返り。
いつ吸い込んでも気持ちがいいねと
澄み切った空を弄びながら
明日へ見事な宙返りするのだ。

恋せよ乙女

ヌルリと陽の手に撫でられ
面食らったぼくは
慌てて情熱玉を吐き出してしまった
いつか君に告白しようと隠していたやつだ。
それはコロンと転がって
非情にも足元でウルウルしている。
――危ないな、そんなことしたら空に穴があくじゃないか
突然現れた警備員のオジサンに叱られた
――これだから近頃の若いモンは困るんだ
行儀作法を知らなくて、と嘆き
顔を玉石混交にしてしかめる。
その間に君はまたとんぼ返り
人混みを隠れ蓑にして
サヨナラも言わずに消えた。
それにしても、吸いこんだ青空をいつ吐きだしたのか。

恋せよ乙女

雲を掃除して陽が丸坊主になって
スミマセン、お騒がせしました、もうしません

座椅子のようにぼくが縮こまっていると
階下からバーゲンセールの喧騒な声が。

――あのオバサンたちも整理整頓せにやならんな
ぶつくさと警備員のオジサンが猫背を見せた
雲の上で揚げひばりが息抜きをしているので
もんどりうって

ぼくは恋せよ乙女と、呟くしかなかった